

編集後記

『過労死防止学会誌』第4号を、会員の皆様方にお届けいたします。

今号には、昨年9月の第9回大会報告者のうち、「特別講演」と「共通論題」の報告者から、大会での報告と会場における議論を踏まえて、改めて論考を執筆していただきました。また、これまでと同様に、分科会報告者の方々に論考を募り、さらに、広く会員の皆様にも原稿募集をおこない、投稿していただきました。その結果、第1部の「特集」は、「共通論題」の報告者への依頼に2本の原稿を寄せていただき、また、第2部の「研究論文・その他」には、特別講演および分科会報告者、さらに当学会会員から、合わせて11本の投稿があり、今号には、13本の論考を掲載しています。

なお、第3号では、2つの特集と投稿合わせて25本の論考が掲載しております。第3号では、特集にコメントも掲載したことに対して、今号は特集が一つだけという事情もありますが、第2部では、第3号と同じ11本の中では論考が投稿されています。今号には、「特別講演」と「共通論題」の一部の報告者から論考が寄せられなかったこと、また投稿原稿が増えなかったことが、編集委員会として今後の学会誌の発行に関わる、重要な一つの課題であります。分科会報告者やその他の会員の積極的な投稿を、さらに広く呼びかけていかねばならないと思っています。さらに、今号にも書評が掲載されていますが、第3号と同じ執筆者による1本のみです。この1年間に出版された過労死問題・過労死研究の書籍への当学会から書評および紹介は重要な使命でもあります。これに対して、投稿だけでなく、編集委員会からの書評原稿依頼も検討課題の一つとしてあげたいと思います。

これまで当学会誌へ目標の一つとして、当学会の過労死問題および過労死研究の海外への発信の具体的な事項として、論考の「英文タイトル」と「英文サマリー」の掲載が常任幹事会および編集委員会において課題として話し合われてきました。今号ではそのうちの英文タイトルを初めて掲載することとなりました。執筆者の方々から、また編集委員からも英文タイトルの草案を寄せていただき、幾人かの方々のご協力もいただき、編集委員会での議論を踏まえ、今号に掲載することが出来ました。さらなる目標として、英文サマリーがありますが、まずは日本語による要約を含めて、今後の重要な課題の一つといたします。

さらに、もう一つの課題は、「編集委員会規程第2条」にある「査読」の実施です。研究者にとっては、学術論文の評価に関わる重要性があり、今後、実行できる体制を整えてまいります。なお、第3号から実施を始めた、提出原稿への編集委員による「校閲」は今号でも行い、一定の成果を得たと思っております。

前号でも書きましたが、「過労死関係の文献情報、新聞記事・雑誌記事情報、過労死をめぐる年間動向」などの大きな課題が残っています。この冊子を読めば過労死防止関連の概要が分かる、また、いつでも知りたい情報が掲載されている冊子である、ということが、この学会誌が目標とすべき一つだと思っています。

編集委員会は、新たな委員長と委員1名増員のもと、第4号を編みました。今後も、上記に記載した様々な課題を含めて、委員共ども取り組んでまいります。

会員の皆様、また本学会誌を読まれた方々、本学会誌へのご意見をお寄せください。また、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。過労死防止運動に学会として寄与するため、今後ともよろしくお願いたします。

2024年3月1日

編集委員 高田好章